

1995年阪神・淡路大震災の教訓と地域と連携した大学の取組

神戸学院大学

前林 清和

阪神・淡路大震災

- 1995年1月17日、淡路島北部を震源としてマグニチュード7.2の地震が発生し、そのゆれは激しく阪神間や淡路島の一部において震度7がはじめて適用された。その被害は甚大で、戦後日本で最大最悪・未曾有の震災となった。
- 死者は、約6,434人、負傷者は43,792人にのぼり、家屋の被害は、全壊及び半壊棟数249,180棟に達した。避難人数も30万人以上にのぼったのである。被害総額は、10兆円規模と言われている。

神戸学院大学の被害状況



大学の対応 1日目

地震直後本学火災発生 119番通報不可

9時： 緊急災害対策本部設置

- ①被災状況の把握と応急・緊急対応
- ②教職員・学生・父母などの安否確認
- ③学事計画への対応
- ④各種関係機関との連絡
- ⑤その他

〔出勤してきた事務職員(約2/3 80名)と一部の教員が本部の指示で対応〕

- ①建物や構築物の被害状況調査
- ②電気関係・ガス関係・上下水道関係のライフラインの調査
- ③インターナショナルハウスの調査
- ④栄養学部・薬学部の教員の一部に出校要請
- ⑤1号館以外の建物内のトイレ使用禁止(水の確保)
- ⑥学生および地域住民の学内立ち入り禁止(安全が確認されるまで)
- ⑦本部のある1号館はLPガス、安全を確認してから使用
- ⑧1号館の漏電チェックを行い、1号館は電気使用可能
- ⑨TV・ラジオで断片的に入る地域情報を確認
- ⑩本部要員としての総務関係20名(総務課・人事課)
- ⑫総務関係職員は全員、自宅の被害に関わらず毎日の出勤と残業を命ずる。
- ⑬電話は不通
- ⑭応急処置を行う前に、災害の状況を写真撮影

2日目

- ①電話が復旧
- ② 1日目に続いて建物その他の危険箇所の応急処置を竹中工務店に手配
- ③ 1日目に続いて各建物の漏電チェック 電気の復旧作業
- ④科学技術庁から電話によるRI施設の状況報告を求められる。
- ⑤入学試験の願書受付期間(締切り日を25日まで延長)
- ⑥後期試験について、1月24日から実施を2月13日から実施その間、休講とする。
- ⑦ 1日目に続いて各学部・学生部(学生関係)、各学部・人事課(教職員関係)安否確認

3日目

- ①インターナショナルハウス断水のため、大学の防火貯水槽からポリ水槽(500ℓ)で運搬
- ②文部省私学行政課に被害状況を電話で報告
- ③前日に続いて学生・教員・事務職員・保護者などの安否情報継続
- ④各学部・各部署からの被害状況報告と対応方法の検討
- ⑤交通や道路状況、ライフライン関係の復旧状況の情報収集

震災後1ヶ月間の対応

(災害対策本部解散まで)

- ①同一法人の高等学校の取引銀行倒壊、教職員の給与支払いに支障。大学の取引銀行を通じて、給与の暫定支給。
- ②留学生2名が被災死亡(中国人)
大学で遺体引取り大学近くの寺に安置、中国大使館を通じて遺族に連絡、大学主催でお別れの会(遺族の訪日費用などすべて大学負担)
- ③後期試験中止決定に伴う課題
学生の単位は、当該科目ごとで平常時でのレポート・出欠・臨時試験などで評価。または、全員にN(認定)評価することを本部で決定。
(一部教授会がN評価に反対 専門教育科目について、レポート課題。本部関係・事務関係は一切協力なしで一学部独自で保証人先に通知。本部決定に従わない、被災者の心情等への配慮、学生への連絡が徹底できるか、レポートを評価する教員個人が正常に評価できたかどうかなど...課題を残した。)
- ④短大(長田)・高校(兵庫)の飲料水が不足、大学のストック分をポリ水槽で運搬(大学のトラックで職員が運搬)

⑤地域からの要請に対応

飲料水の分配、薬の天秤はかり貸し出し、薬剤師派遣、インターナショナルハウスを地域住民の臨時避難所(指定)提供、幼稚園にグラウンド提供、中学校卒業式用にホール提供、他大学(神戸の2大学)に入学試験会場として提供

⑥京阪神地区入学試験の実施(大阪学院大学・京都薬科大学から会場を借用)

⑦行政等との対応

文部省(激甚災害関係・留学生死亡など)、警察・消防関係(火災現場・留学生死亡など)、科学技術庁(RI施設関係)、県・市関係(被害状況・臨時避難所など)、私学振興事業団(被害状況関係・借入金返済猶予願など)、TV・新聞各社との対応、私立大学協会・他大学などからのお見舞い(電話対応、訪問対応など)、日本国際教育協会へ連絡(死亡留学生)

⑧緊急復旧工事

ライフライン関係、講義室、実験・実習室、図書館、事務室、研究室、体育館、部室、食堂など。12号館、13号館建築中で工事関係者が駐在していたことで早期対応(2月10日頃までに学内の水道の多くが復旧、電気ほぼ復旧、ガス半分以上復旧)

⑨下宿確保

下宿生約3,000名のうちの明石・大学周辺で1,500名近くが被災、新入生用約800名と合わせて、約2,000名近い下宿の確保 折込チラシ、通学可能地域の不動産業者に協力要請、企業の寮の転用(大学で一括契約)などで対応

教 訓

- 緊急時には大学の教職員が先頭に立って対応することが重要である。
- 何よりも**教員と職員**が古い固定観や階層的意識を払拭し、**協働関係**を築いてこそ予期せぬ震災や事件、事故に対応できる。
- 日頃から**リスクマネジメント・リスクコミュニケーション**(事件・事故・災害などの発生の予測や対策)や**クライシスマネジメント・クライシスコミュニケーション**(発生後の対応)について、大学内で組織的に検討しておくことが求められる。

学際教育機構 防災・社会貢献ユニット

平成17年度文部科学省 現代GP採択

学際教育機構の特徴

- 防災・社会貢献ユニットとスポーツマネジメントユニットを設置
- 2年生から3年間の特別コース
- 豊富なカリキュラムから60単位以上を取得



防災・社会貢献ユニット

国際的視野に立ちながら、地域社会の安全で温かみのある「まちづくり」に貢献できる人材育成

自然災害および人的災害を対象とした

「防災コース」

ボランティアや国際協力を対象とした

「社会貢献コース」

カリキュラム

防災・社会貢献ユニット専門科目

	年次 セメスター	開講 単位数	所要 単位数	1 I・II	2 III	3 IV	3 V	4 VI	4 VII	4 VIII
活動	ユニット 実習科目	15	8以上		防災実習Ⅰ(2) 社会貢献実習Ⅰ(2) 自己防衛実習(1)	防災実習Ⅱ(2) 社会貢献実習Ⅱ(2) 救命処置実習(1)	防災実習Ⅲ(2) 社会貢献実習Ⅲ(2)			
講義	防災コース 専門科目	36	主 コース より18 以上 (必須4 含む)		自然災害学Ⅰ(2) 阪神淡路大震災研究Ⅰ(2) 防災概論(2) 防災行政学Ⅰ(2) 防災教育学Ⅰ(2) 災害解析基礎理論(2)	自然災害学Ⅱ(2) 阪神淡路大震災研究Ⅱ(2) 防災行政学Ⅱ(2) 防災教育学Ⅱ(2) 災害分析論(2) 防災論(2) 災害情報論(2)	災害ボランティア学(2) 犯罪学(防犯論含む)(2)	地震災害論(2) 災害心理学(2) 犯罪心理学(2)		
	社会貢献 コース専門 科目	34			市民社会論(2) 地域コミュニティ学(2) 社会貢献論(2)	国際災害医療論(2) 障害者スポーツボランティア論(2) 国際協力論Ⅰ(2) 開発教育学(2) 開発途上国研究(2) 開発経済学(2) 社会貢献Ⅱ(2)	地域福祉論(2) 障害者ボランティア学(2) アジア地域文化研究(2) 国際協力論Ⅱ(2) アジア法制度論(2)	国際紛争論(2)		
演習	演習科目	12	12		社会貢献論Ⅰ(2) ゼミナールⅠ(2)	ゼミナールⅡ(2)	ゼミナールⅢ(2)	ゼミナールⅣ(2)	卒業研究Ⅰ(2)	卒業研究Ⅱ(2)
		97	44以上							

学際教育機構共通科目

	年次 セメスター	開講 単位数	所要 単位数	Ⅰ Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	
全 ユニ ット 共 通	共通演習 科目	9	3以上				国内実習Ⅰ(2) 海外実習Ⅰ(2)	インターンシップ(1)	国内実習Ⅱ(2) 海外実習Ⅱ(2)			
	共通専門 科目	28	8以上			チームビルディング論(2) 国際情勢論(2) NPO学(2) ビジネスマロ経済学(2)	危機管理論(2) 地域社会国際化論(2) ビジネスマロ経済学(2)	企業危機管理論(2) 情報危機管理論(2) 国際宗教比較論(2) 流通経済論(2)	薬品危機管理論(2) 食物危機管理論(2) 人的資源管理論(2)			
	専門 外国語 科目	8	3以上			英語読解(Ⅰ) ホスピタリティ・イングリッシュⅠ(2)	英作文(Ⅰ) ホスピタリティ・イングリッシュⅡ(2)	実践英会話Ⅰ(Ⅰ)	実践英会話Ⅱ(Ⅰ)			
		4						外国語読解(Ⅰ) 外国語会話入門Ⅰ(Ⅰ)	外国語作文(Ⅰ) 外国語英会話 入門Ⅱ(Ⅰ)	※必要に応じて適宜 その他外国語を開設		
	基礎能力 養成科目	8	2以上			数的処理基礎Ⅰ(Ⅰ) 文章読解基礎Ⅰ(Ⅰ)	数的処理基礎Ⅱ(Ⅰ) 文章読解基礎Ⅱ(Ⅰ)	数的処理応用Ⅰ(Ⅰ) 文章読解応用Ⅰ(Ⅰ)	数的処理応用Ⅱ(Ⅰ) 文章読解応用Ⅱ(Ⅰ)			
		57	16以上									

…必須科目 ()は単位数

授業の特徴

授業カリキュラムにおいては行政や報道関係他実務家との連携授業を実施。

学外研修を多数取り入れた少人数教育で災害対応・支援活動の現場コーディネート能力を養成。

地域との相互教育を重視し、市民を対象とした「防災シンポジウム」や「社会貢献シンポジウム」を開催。



社会貢献シンポジウム

授業風景



救命処置実習



学外研修

海外実習



タイ研修



カンボジア研修

防災・社会貢献活動の実施例Ⅰ

幼稚園・小学校・中学校において、独自に開発した防災教育プログラム・教材を用いて、学生が出前授業を実施。



この教材は、防災教育チャレンジプランで、大賞を受賞。



防災・社会貢献活動の実施例Ⅱ

開発教育のプログラム、教材を学生が独自に開発し、開発途上国の現状と国際社会のありかたについて、地域の小学校や中学校において、出前授業を実施。



防災・社会貢献活動の実施例Ⅲ

市民救命士インストラクター

「救命処置実習」の受講生90名が市民救命士講習のインストラクターの資格を取得。これは神戸市の市民救命士講習において、学内や地域において講習を実施することができる資格で、学生たちが中学校、高等学校、地域社会において「市民救命士講習会」を開催し、地域社会に貢献。



防災・社会貢献活動の実施例Ⅳ

平常時のボランティア活動のほかに、大規模災害が発生した際に、学生が中心になってボランティアを実施。

中越沖地震、能登半島地震、宮城県沖地震、四川大地震などにボランティアとして、緊急支援活動を展開。



四川大地震

今までの受賞

- 平成18年1月7日
1.17ぼうさい未来賞「ぼうさい甲子園」奨励賞 大学の部
- 平成19年2月18日
2006年度防災教育チャレンジプラン 防災教育大賞
- 平成20年1月29日
第12回防災まちづくり大賞 一般部門 消防庁長官賞
- 平成21年1月11日
1.17ぼうさい未来賞「ぼうさい甲子園」ぼうさい大賞
(グランプリ)
- 平成21年2月22日
第28回こうべユース賞

文部科学省「戦略的大学連携支援事業」



ポアイ4大学による連携事業

ー安全・安心・健康のための総合プログラムを軸としてー



神戸学院大学



神戸女子大学



兵庫医療大学



神戸女子短期大学

取り組みの状況

- ポーアイ4大学連携推進センターの開設
- 安全・安心ステーションの設置
- 健康・生活支援ステーションの設置
- AEDや緊急地震速報の設置
- 学生安否システムの整備
- 地域交流事業の実施

25

より高度に、有機的に・・・

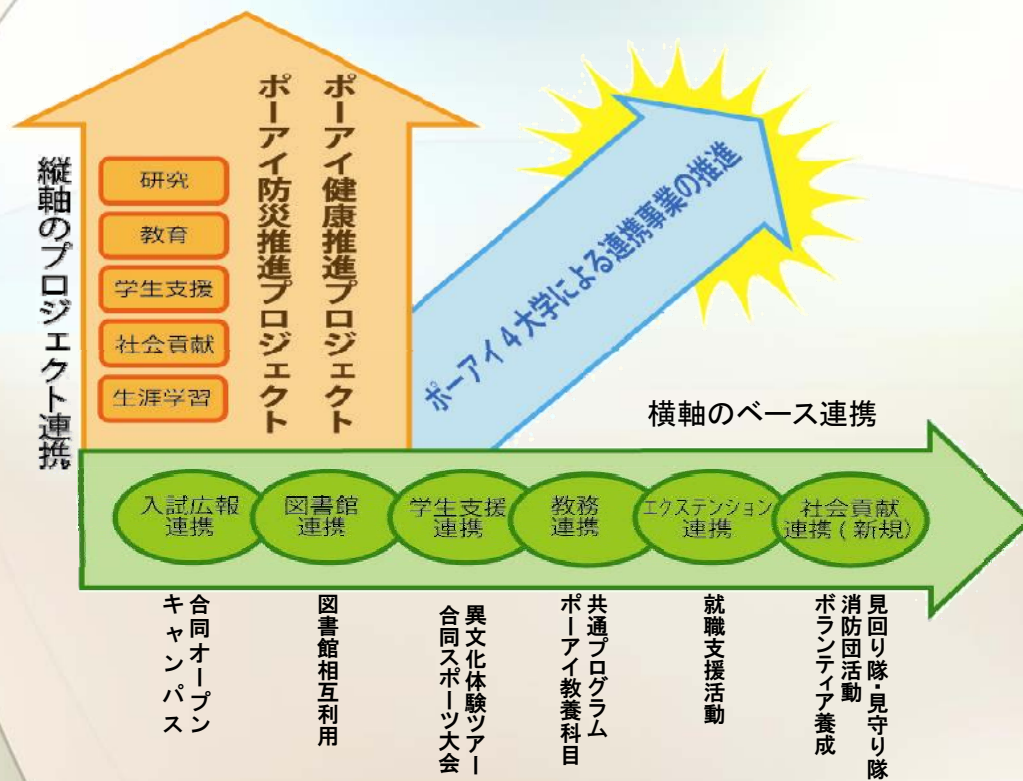
- 研究・教育のための高度な連携の可能性
- 地域と学生の相互教育
- 安全・安心・健康を推進し地域を活性化



「教育」と「研究」と「社会貢献」がリンク

26

縦軸と横軸として展開

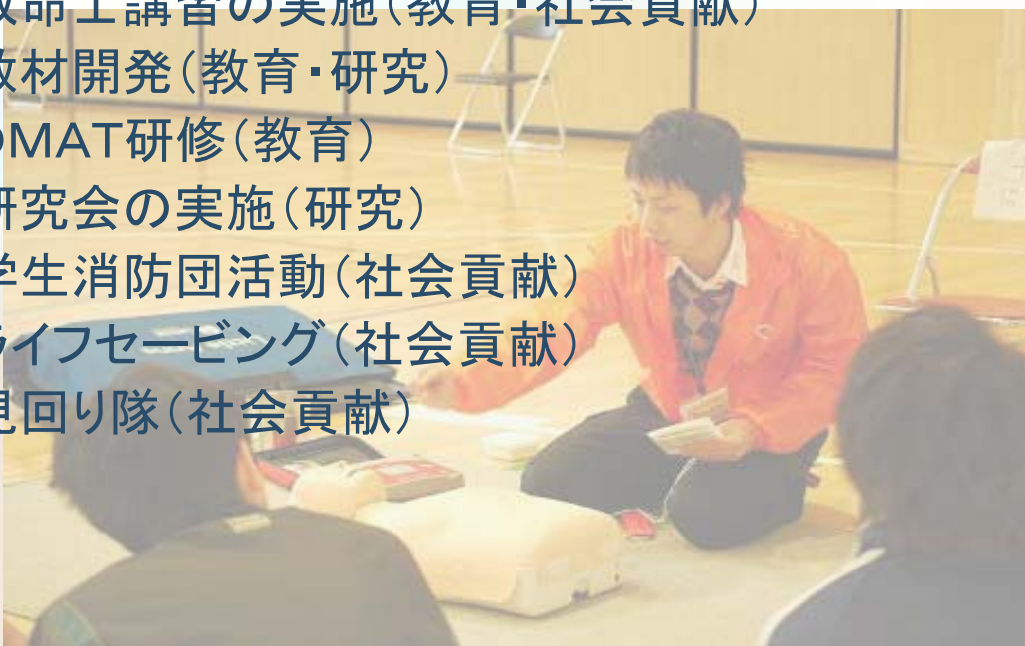


27

防災推進プロジェクト

安全・安心なまちづくりをテーマに

- 救命士講習の実施(教育・社会貢献)
- 教材開発(教育・研究)
- DMAT研修(教育)
- 研究会の実施(研究)
- 学生消防団活動(社会貢献)
- ライフセービング(社会貢献)
- 見回り隊(社会貢献)



28

健康推進プロジェクト

健康・生活支援をテーマに



- ハートフルフェスタ
＜市民啓発事業＞（教育）
- 教材開発（教育・研究）
- 研究会の実施（研究）

くじらくらぶ＜子育て支援事業＞（教育・社会貢献）
介護相談（社会貢献）
個別健康相談（社会貢献）
見守り隊（社会貢献）



29

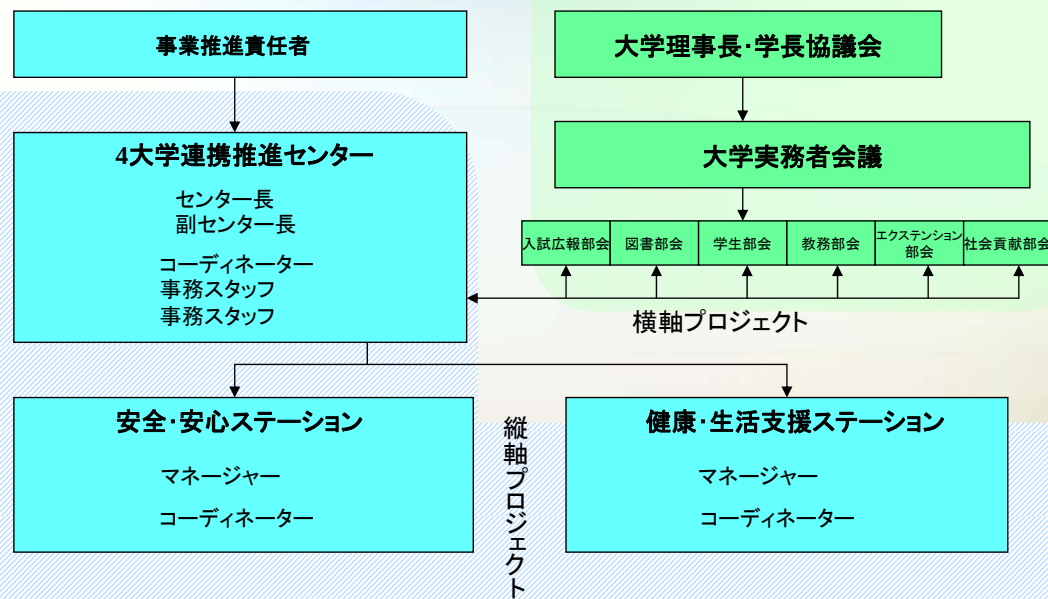
共通プロジェクト

- ポーアイ教養科目（10科目）の開設
- 学生対象 ボランティア育成セミナー
- 緊急地震速報 校内放送設備の設置
- 災害時学生安否確認システムの構築と運用
- AED（自動体外除細動器）の設置と貸し出し
- きらめきプロジェクト（学生研究支援事業）

……など

30

組 織 図



取り組みの効果

- 学生の学士力の向上と広い視野の育成
- 研究・教材開発の高度な発展
- 地域住民の安全・安心・健康の実現
- 産学官民の連携強化
- 地域交流の活性化
- 大学経営の効率化

10年後を視野に

本プロジェクトは、10年をめぐり、補助事業が終了した後も、継続し、4大学の連携を確固たるものにし、より効果的・効率的な研究・教育を実現させると共に、地域社会に貢献していくことを目指している。

ご清聴ありがとうございました。